



被告人たる「暇空茜」こと水原清晃の主導する Web における 大規模な権利侵害(いわゆる「ネットリンチ」)の被害および実態について

2025年8月1日

第1 はじめに

このたび、横浜地検は、被告人たる「^{ひまそらあかね}暇空茜」こと^{みずはらきよてる}水原清晃に対する侮辱被告事件の公判を横浜地裁に請求しました(通常起訴)。私は、2023年3月上旬以降、Web サイト「X」(旧: Twitter)、「YouTube」、「note」、「5ちゃんねる」、「好き嫌い.com」といった複数の媒体において、被告人および大勢の支持者によって、長期にわたる複合的な権利侵害(名誉毀損、侮辱、プライバシー侵害、肖像権侵害、平穏生活権侵害、著作権・著作者人格権侵害)を受け続けています。この一連の行為は、いわゆる「**ネットリンチ**」と呼ぶべき悪質なものであり、私はこれにより、著しい精神的苦痛を含む甚大な損害を被っています。

第2 事件の経緯

2023年3月7日に、私は、被告人が Web サイト「note」において公開した、筑波大学の^{ひがしのあつこ}東野篤子教授を攻撃する投稿記事について、事実誤認を含む非現実的な主張を Web サイト「X」において強く批判しました。被告人は、私の指摘に論理的に反論せず、**私に対する個人攻撃(侮辱)および誹謗中傷**を開始するとともに、多数の支持者に向けて私を攻撃対象として名指しし、**集団的な加害行為を扇動する言動**を繰り返しました。

なお、今回の起訴に先立って、被告人は、一般社団法人 Colabo を含む複数の被害者に対して、執拗な攻撃を繰り返しており、既に東京地検によって東京地裁に起訴されました。

第3 権利侵害の具体的な内容

被告人は、以下のような多数の虚偽情報を常習的かつ組織的に流布しています。

- 1 学歴詐称および書類偽造: 私の在学するキングス・カレッジ・ロンドン(KCL)から発行された在学証明書を「偽造」と根拠なく断定し、私が学歴を詐称しているとする虚偽事実を流布しました。私は学生証や大学から発行された電子メールアドレスも SNS において提示しましたが、被告人および支持者による攻撃は一向に止みませんでした。
- 2 病気の詐称: 私の持病である潰瘍性大腸炎を「詐病である」とか「肛門で自慰行為をしていたために発症した」と根拠なく断定し、これらの虚偽事実を流布しました。
- 3 風俗店の出入り禁止: 私が横浜市中区福富町に所在するソーブランド「英國屋」においてトラブルを起こして出入り禁止になったとする虚偽事実を流布しました。
- 4 プライバシー侵害: 私の自宅住所を推知させる情報のほか、私の電話番号および電子メールアドレスを Web サイト「X」において無断で流布しました。
- 5 人格攻撃: 私の身体的特徴を^{やゆ}揶揄する蔑称の「ホビッチョ」を考案および拡散するとともに、私をゴキブリに擬える「ゴキグチ」といった呼称を使用したり、私に対して「デブでブスでガチャ歯」と罵ったりと、著しい侮辱を執拗に繰り返しました。最近も、私につい

て「死んでいる」とか「殺された」といった発言を繰り返しています。

第4 嫌がらせ・迷惑行為の深刻化

被告人による攻撃が始まってから、以下のような嫌がらせ・迷惑行為が殺到しました。

- 1 なりすまし行為: 私の名前や連絡先を無断で使用した EC サイトでの商品注文、ホテルやレストランの予約、資料請求や問い合わせが多数にわたって繰り返されました。
- 2 犯罪予告: 私に宛てた殺害予告のほか、私の氏名および連絡先を騙った犯罪予告が繰り返されました。この他、大学から発行された電子メールアドレスを騙ったタワーブリッジおよび大英博物館に宛てた爆破予告が送信されました。
- 3 その他の迷惑行為: 私の電子メールに宛てた「死ね」「殺す」といった大量の電子メールが送信されたほか、風俗店や不動産会社のメールマガジンに登録される被害が相次ぎました。また、「学歴詐称」「英国屋出禁中」といった文言の記載された葉書や、「行方不明になっている」とする「水原」名義の信書が私の実家に宛てて送り付けられました。

第5 被害の状況

一連の執拗な攻撃により、私には、以下のような回復困難かつ甚大な損害が生じました。

- 1 心身への影響: 長期にわたる攻撃により深刻な精神的苦痛を受け、通院や抗うつ剤の服用を余儀なくされたほか、何度も自殺を企図しました。また、潰瘍性大腸炎の症状が悪化し、複数回にわたって緊急搬送され、輸血や緊急入院を必要としました。
- 2 学業への支障: タワーブリッジおよび大英博物館に宛てて私を騙った爆破予告が送信されたことを理由に、KCL を停学となり、学業を著しく妨害されました。
- 3 交友関係: 友人や知人に対しても私に関する攻撃や情報提供の要求が及び、私の交友関係に深刻な支障が生じています。この結果、ある友人女性は、被告人の発信した情報を目にした家族や上司から、「堀口英利は反社会的勢力かもしれないから関わるな」と指示され、実際に私との交友関係を断絶しました。

第6 結語

被告人が主導した一連の権利侵害は、健全な言論や正当な批判の範疇を大きく逸脱した明白な害意に基づく極めて悪質な私刑に他なりません。被告人は、自らが Web において有する影響力を悪用し、私を標的とした集団的かつ一方的な攻撃を組織しました。

この結果、私は、被害の回復と加害者の特定のため、合計で 300 件を超える発信者情報開示命令や合計で 100 件を超える訴訟の申立てを余儀なくされました。しかし、ひとたび破壊された健康や人間関係、そして奪われた未来と時間は、決して元に戻りません。

以上の深刻かつ切実な事情に鑑み、私は、主犯格である被告人に対し、責任に相応しい嚴重な処罰を司法に求めることを決意いたしました。また、今後は、このような被害を受けた当事者に対する支援や権利回復を図る包括的な政策も求めていきたいと考えています。